

平成二十一年 十二月一日	誰ぞ吹く オーボエの音の 寒々と	句会 特選
平成二十一年 十一月三日	肩書きは 生涯待たず 羽抜鶏	市民句会 俳句会賞
平成二十一年 十月六日	鶏頭を 画きつつ子規の 句を吟ず	句会 特選
平成二十一年 十月三日	八朔や 老舗自慢の砂糖菓子	多賀 佳作
平成二十一年 八月九日	起重機の 音姦しき 遅日かな	郡上八幡NHK 入選
平成二十一年 九月十八日	雨音や 畳の上に 蟻一匹	和倉NHK 入選
平成二十一年 九月十八日	古書店の 主寡黙に 梅雨時雨	和倉NHK 入選
平成二十一年 九月十五日	寝返れば 寝返へる方に ちちろ鳴く	句会 特選
平成二十一年 九月一日	晩年の色は何色 花野の忌	夢二忌 特選
平成二十一年 八月十八日	暴書する 中より落ちし 祖父の文	句会 特選
平成二十一年 六月二十一日	冴返る 諏訪の社の巫女溜り	NHK諏訪大会 佳作
平成二十一年 六月二十一日	穴出でし 蜥蜴の日向に 顔を向け	NHK諏訪大会 佳作
平成二十一年 三月二十一日	神鶏の つれ鳴きあふて 寒明くる	市民春大会 俳句会賞
平成二十一年 四月五日	年新た お木曳の声 訝する	紀ノ川大会 特選
平成二十一年 一月二十五日	大早 それでも兄は 農を継ぐ	NHK俳句大会 特選(表彰)

平成二十一年 一月二十五日	醉芙蓉 八尾の空の 暮れかぬる	NHK俳句大会 入選
平成二十年 十二月四日	軍歴の ことばは死語に 冬銀河	投句 秀作
平成二十年 十二月四日	アンジェラスの鐘 名にし負ふ 有明海に 卯浪立つ 見はるかす 五島列島 照り霞む 列島へ 青水無月の 波のひだ 天主堂 多き五島の瑠璃蜥蜴 隠れ耶蘇の 昔ありけり 花蘇鉄 聖堂の 戸棚に飾る 絵帷子 老鸞の 声はマリアの 祈りども 蟻蠓に まとひつかれし 鬼ヶ岳 玄葵 島の民家の 軒低し アンジェラスの 鐘夢うつつ 明け易し	天領作家 佳作
平成二十年 十一月	なつかしき 声して届く 今年米	市民句会 特選
平成二十年 十月	すいと来て すぐ群れをなす 赤とんぼ	特選
平成二十年 四月	春昼や 子の焼くパンの 匂ひ来る	
平成二十年 三月	形見なる 母の手縫の 布子着る	

平成十八年 十一月	平成十八年	平成十九年 一月	平成十九年 一月	平成十九年 六月	平成十九年 十月	平成十九年 八月	平成十九年 八月	平成十九年 八月	平成十九年 八月	平成十九年 十一月	平成十九年 十一月	平成十九年 十二月	平成十九年 十二月	平成二十年 一月
秋の蚊の 忍びの術で ささくれけり	夏炉の火 絶やさぬ飛驒のはたごかな	新日記 一日一句 記して用ず	新年の 正座の兄に 威厳あり	青蜥蜴 光を残し 走り去る	彦星に 逢ひたる心地 孫の来て	風薫る 亡夫の名遺る 寄進札	高速の 湾岸道路 霧深し	神鶏の くくと餌を食む 花の昼	桐の花 飛驒の車田 みな小ぶり	伸び放題 伸びて櫓田明かりかな	巫女舞に 火蛾も負けじと 舞い出する	終命は 我が家がよろし 白障子	綿虫に かはされし芋の 置きどころ	才蔵の 合点合点と 鼓打つ
市文振理事長賞	ロンドン世界大会	初句会 特選	新年会 入選	特選	金子兜太 入選	NHK熊野田辺	NHK熊野田辺	NHK熊野田辺	NHK足立俳句会	特選	全国大会 入選	大会 秀逸	特選	三河漫才

平成十七年 六月	平成十七年 七月	平成十七年 五月	平成十七年 十月	平成十七年 八月	平成十七年 十二月	平成十八年 一月	平成十八年 一月	平成十八年 三月	平成十八年 三月	平成十八年 三月	平成十八年 四月	平成十八年 七月	平成十八年 九月	平成十八年 十月
百合化して 蝶となりたる 牧広し	みちのくの 山壁深し 土用東風	春寒の 外科病棟の 長廊下	蔵窓を 用ず本陣に秋気満つ	生き甲斐は 写経と言へり 生身魂	内陣の 寒さこらえる 札所寺	逃げ水の 光まぶしき 滑走路	象形や 雨意に紅増す 令歎の花	いつか来る 死と言ふ大事 鳥雲に	桜東風 みくじは吉の 千光寺	穴出でし 蛇海坂を 登りくる	春寒し 礎石に残る 鑿の跡	日除けして 京の町屋の 小高	戸隠の 足湯に写る 夜半の月	入婿の 裸をみせぬ 律儀かな
入選	象形 特選	市 特賞	吟行 佳作	市賞	入選	全国俳句大会 入選	全国俳句大会 入選	大会 特選	尾道 赤松けい子 佳作	尾道 寺井谷子 佳作	吟行 挙母城 特選	市民句会 特選	吟行 戸隠	研修会 特選

平成十四年 四月	平成十四年 九月	平成十四年 九月	平成十四年 九月	平成十五年 一月	平成十五年 十二月	平成十五年 一月	平成十六年 六月	平成十六年 七月	平成十六年 七月	平成十六年 八月	平成十六年 十二月	平成十七年 一月	平成十七年 一月	平成十七年 三月
春埃 まぶた重たき 盧遮那佛	露けしや 京化野の佛道	開け放つ南部曲屋土間涼し	頂上に 来て見失う 道おしへ	息とめる 射手の一瞬 弓始	頼られる ことも生甲斐 根深汁	師の句碑を 音なく濡らす 寒の雨	透明な 水が命の 水中花	人住まぬ 久女旧居の 今年竹	考へる つもりがいつか 大昼寝	鉦の音の 夜涼をさそふ 夜念仏	宝蔵の 鉄扉に釣瓶 落としかな	はずれくじ 引いて初夢 さめにけり	神前の 舞は浦女淑気満つ	冬銀河 師に近づくは馬齡のみ
吟行 無限展	研修 秀	市 賞	研修	新年会 浅井 入選	入選	弔句	入選	吟行	市 賞	綾渡	入選	入選	同人新年会	燕雨師三回忌 特選

平成十二年 十月	平成十二年 十月	平成十二年 十二月	平成十二年 二月	平成十三年 三月	平成十三年 三月	平成十三年 三月	平成十三年 四月	平成十三年 五月	平成十三年 十月	平成十三年 十一月	平成十三年 三月	平成十三年 十二月	平成十三年 十月	平成十四年 三月
着せられし 色みな似合ふ 菊人形	先陣の 鴨来て池の 華やげり	咳拂して 大仰に 僧の来る	着ぶくれて 演芸場の 客となる	声のして 次の声待つ 匂鳥	花の雨 絞り開祖の碑を濡らす	亀鳴くや 円鑄し 芭蕉堂	春愁の 漢寡黙に ろくろひく	蝌蚪の紐 ほぐれて水の動きけり	水軍の 基地寂々と 木の実落つ	火床祭 炎色見定む 鍛冶師の眼	山笑ふ 野鳥の声の 出る図鑑	こがらしに 言葉の端を さらはれる	はね橋の 猿の遊芸 天高し	郷藏に 飾る中馬の 古雛
名城菊花大会 特選			吟行 大須		有松		木曾		吟行	吟行	市 賞		小倉 特一席	市 賞

平成十年 五月	平成十年 八月	平成十年 十一月	平成十年 十月	平成十一年 三月	平成十一年 三月	平成十一年 八月	平成十一年 十月	平成十一年 十月	平成十一年 十月	平成十二年 二月	平成十二年 三月	平成十二年 四月	平成十二年 五月	平成十二年 六月
堅香子の 初恋といふ 花言葉	ピアスして 話題をさらふ 帰省の子	古枯の 銀座2丁目 抜けきれず	弥陀ヶ原 地塘を包む 草紅葉	観音の 指の艶やか 春めけり	あせるなど 亡父の声きく 彼岸寺	山里の 水音とだへ 鮎錆びぬ	ムツクリの 音に恋心 秋深む	葉月潮 沖より昏るる 小樽港	夜景いま 遠の漁火 肌寒し	古様子 残る酒蔵 底冷えす	飾られて 命をもらふ 古雛	鈴の緒の 音の湿りて おぼろの夜	桐の花 茶屋の名残の 連子窓	亡母のもの 似合ふと言いはる 更衣
市民句会賞	市民句会 特選	燕雨先生	月山 秀逸賞	吟行 奈良	市民句会 賞	市 特選	北海道	北海道	北海道	市 特選	市 特選	燕雨先生 弔句	市	

平成七年 十一月	平成八年 二月	平成八年 三月	平成八年 十一月	平成九年 二月	平成九年 三月	燕雨先生	平成九年 六月	平成九年 八月	平成九年 八月	平成九年 十月	平成十年 一月	平成十年 四月	平成十年 四月	平成十年 四月
蟪蛄の 何を思案の 写楽顔	鳥雲に 形見となりし 洒落眼鏡	切長の どこか亡夫似の 享保雛	神鶏は雄ばかりなり 神の留守	立春や 鬼の出佛ふ 観音寺	針供養 母に学びし ことあまた	喜寿祝ふ 燕尾新し初燕	足摺の人よせつけぬ 大卯浪	みちのくの 一夜泊りの 花火船	到来の 酒は辛口 遠花火	土瓶蒸し まず一献は 亡夫に酌む	寒晴や 踊子像の 靴光る	どすのきく 声きき分ける 墓の恋	南無の文字 筆太に書く 蓮如の忌	白波の はしけ夏めく 城ヶ島
議長賞								市民句会 句会賞			鶴舞パラリンピック 準賞	市民句会 特選	佳作賞	島崎先生 特選

			平成元年 十一月	平成三年 一月	平成三年 三月	平成四年 一月	平成四年 三月	平成四年 七月	平成四年 八月	平成五年 二月	平成五年 二月	平成五年 五月	平成五年 六月	平成五年 九月
			信玄の始祖の村ゆく冬帽子	米寿いま母すこやかに福寿草	まんさくやふる里の山まぶしかり	歳徳のありと卦の出る寒の入り	反抗も育つ証の浅蜷汁	近道はいつも小走り栗の花	白粉花や扁額の金剥落す	矢作川見ゆるふる里梅二月	畳屋の親子二代の針供養	ごんぎつね今も居さうな麦の秋	気骨ある母は卒寿の髪洗ふ	秋桜 信濃の空を高くせり
			特選	特選	特選 市民句会賞	特選 新年会	特選 市民句会	特選 市民句会	吟行 足助	特選	特選	特選	特選	特選